



マイコプラズマ肺炎が大流行中！キットが足りない

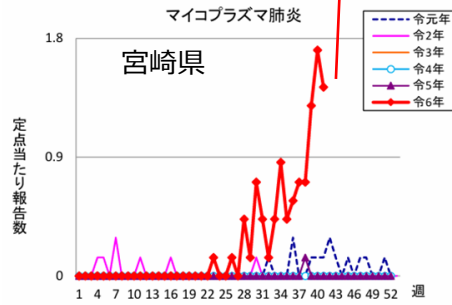
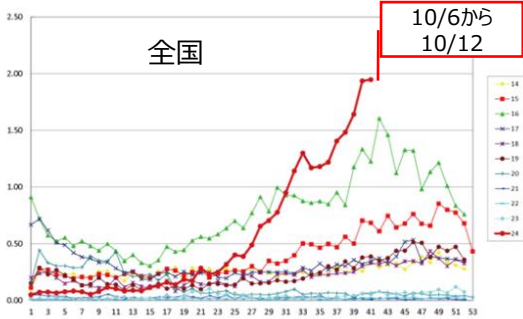


マイコプラズマ肺炎が9月から10月にかけて急増してます
検査キットが手に入らない事態に陥ってます
マイコプラズマ (LAMP) にて検査しましょう

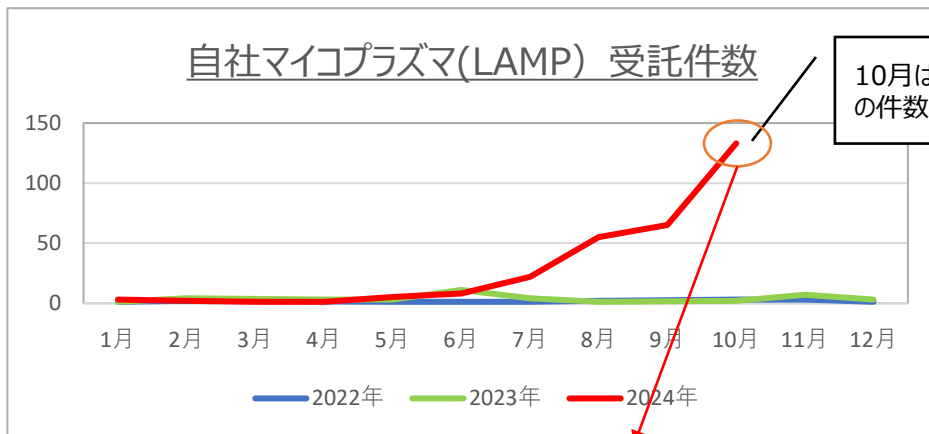


マイコプラズマ肺炎の定点当たりの報告数

10/6から
10/12



自社のマイコプラズマ (LAMP) の検査依頼数も急上昇中

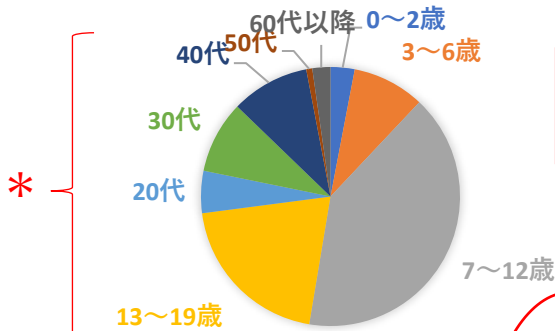


10月は27日まで
の件数

8月から増え
始め10月に
急増

内訳

10月年齢別受託件数割合



子供だけでなく大人
からの依頼が増えて
いる

10月年齢別陽性率

年齢	陽性率 (%)
0~2歳	25
3~6歳	58.3
7~12歳	31.5
13~19歳	25.9
20代	14.3
30代	25
40代	15.4
50代	0.0
60代以降	0.0
総計	28.6

マイコプラズマ肺炎の流行拡大が止まらない

- 「マイコプラズマ肺炎急増にあたりその対策について」が公開されているのでご紹介します（日本呼吸器学会ウェブサイト）

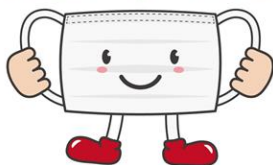
細菌性肺炎とマイコプラズマ肺炎の鑑別に用いる評価項目

- ①年齢60歳未満
- ②基礎疾患がない、あるいは軽微
- ③頑固な咳嗽がある
- ④胸部聴診上所見が乏しい
- ⑤迅速診断法で原因菌が証明されない
（マイコプラズマ抗原または遺伝子検査（LAMP法）陽性を除く）
- ⑥抹消白血球数が1万/ μ L未満である



- 6項目中5項目以上が合致……マイコプラズマ肺炎を強く疑う
- 2項目以下 ……細菌性肺炎を強く疑う
- 3項目あるいは4項目に合致……鑑別困難または両病原体の混合感染を考慮

マスクをしよう！



- コロナ渦の風景と比較し現在ではマスクを着けているヒトはめっきり少なくなりました。
- マイコプラズマ肺炎は感染から発症までの潜伏期間が2週間から3週間と比較的長い、いつ感染したかわかりづらい、ただの風邪と思いこんで歩く患者が多いこと、などから別名「歩く肺炎」とも呼ばれており、感染が拡大することに。
- 体調が気になる方、近くに感染者がいる方などは、マスクを着けることが感染対策として大事になります

感染が拡大し大人の感染者が増えています

マスク、手洗いの徹底など感染対策の基本をわすれずに



マイコプラズマ肺炎の検査

マイコプラズマ遺伝子検査（LAMP）の特徴

- M.pneumoniaeに特異的なDNAを直接検出
- マイコプラズマ肺炎では発症初期には病原体の気道粘膜への排出がピークに達し、数週間にわたって菌が排出されるので、発症初期（2～16日目）から検出可能、また抗体ができる前から検出が可能のため早期診断に役立つ



専用容器の注文もこちらに